

あわせて、東京五社

神社におまいりし、手をあわせる時間。それは、神様に見守られながら、誰のものでもない、あなただけの願いや想いを言葉にする時です。清らかな空間の中、心静かに自分と向き合い日々の感謝と幸せを祈りましょう。



日枝神社

皇城の鎮・山王さま



比叡（日枝）山頂に鎮まる大山咋神の神徳は宏大で、平安末、江戸氏の館に祀られ、道灌は江戸城の鎮守神と崇め、家康は將軍家の産土神と尊崇した。六月の山王祭は天下祭と称され、日本三大祭の随一とされた。維新後、皇城の守護神として、官幣大社に列格。皇居周辺の都心の氏子地域（官庁街や銀座・京橋・日本橋等）巡行の神幸祭は夏の風物詩として知られる。



神幸祭

明治神宮

明治の精神を現代に



明治維新を成し遂げ近代日本の礎を築かれた明治天皇・昭憲皇太后両ご祭神の聖徳を永遠に敬仰すべく、国民の熱意により大正九年（一九二〇）創建。約七十万㎡の境内は全国からの十万本の献木によって造成され、世界に類のない真心の森、心のふるさとと親しまれている。六月、ご祭神ゆかりの花菖蒲が咲き誇るさまはみごと。例祭は十一月三日（明治天皇御誕生日・文化の日）。



御苑

靖国神社

皇居のほitori 九段の杜



明治天皇の思し召しにより明治二年（一八六九）に「招魂社」として創建。明治十二年（一八七九）現社名に改められる。国のために命を捧げられた二四六万六千余柱の英霊が祀られ、平和を願う人々の祈りが絶えない。七月の「みたままつり」には英霊の「みたま」を慰める多数の献灯が灯される。境内には約二百羽の白鳩が舞い、桜の美しさは見事で気象庁が指定した東京の桜の標本木がある。



みたままつり

大國魂神社

武蔵総社



大國魂大神を始め武蔵国の諸神をお祀りし、景行天皇四十一年（一一一）の創建。大化改新により武蔵国府が置かれ、国司が奉仕し武蔵総社となる。大國魂大神は出雲の大国主神と同神とされ、武蔵国の守護神として崇敬されている。五月五日に執り行われる例大祭は夜間に神輿の渡御が行われたことから「くらやみ祭」として親しまれている。（現在は夕刻より渡御）



くらやみ祭

東京大神宮

東京のお伊勢さま



東京における伊勢神宮の遥拝殿として明治十三年（一八八〇）日比谷に創建。昭和三年（一九二八）現在地に移り今日に至る。伊勢神宮（内宮・外宮）のご祭神である天照皇大神と豊受大神、さらに天地万物の生成化育つまり結びの働きをつかさどる「造化の三神」もあわせ祀る当宮は、神前結婚式を創始し世に広めたことでも知られている。縁結びにゆかりの深い神社として良縁を願う人々の参拝も多い。



豊寿舞（神前結婚式）